

日本絵画の流れ

名作「夜桜」に至る歴史を振り返る

平成12年3月10日金——5月28日日

大倉集古館

東京都港区虎ノ門2-10-3

お問い合わせ 03-3583-0781

開館時間 10時—16時30分

休館日 月曜日(休日の場合は翌日)

ホテルオークラ本館 正面玄関前

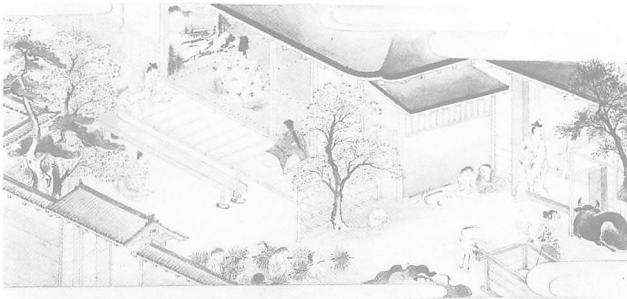
THE OKURA SHUKOKAN MUSEUM OF FINE ARTS

日本絵画の流れ

日本の近代化は開国以前の江戸時代後期に始まり、流入してきた西洋思想の影響を受ける過程で徐々に推し進められてきました。美術の世界でも、銅版画や油絵との出会いによって開眼し、遠近法を取り入れるなどの試みも行われました。そうした中で生まれた日本画の新たな展開も、わが国の伝統的な美意識を保ちつつ、単なる模倣にとどまりませんでした。

明治に入り、西洋の作画技法はますます本格的に研究され、革新的な流れもみられましたが、その後、フエノロサや岡倉天心らの活動によって船出した近代の日本画は、一層高い創造性を目指すこととなりました。そして橋本雅邦、横山大観、下村観山、菱田春草らの俊英を生み出したその源には、長い歴史の中で培われてきた日本絵画の伝統を振り返り尊重しながら、さらに独自の表現を確立させようという基本的な理念があつたことは否めません。

本展ではそのような古画の名品を、仏教絵画、やまと絵、狩野派、琳派、文人画、浮世絵など様々なジャンルから選び出して展観すると同時に、その到達点の一つといえる横山大観の傑作「夜桜」を、これらと対比させることによって、近代絵画を創り上げた人々の古画への思いと研鑽の跡をご鑑賞いただきたいと考えております。



1



2

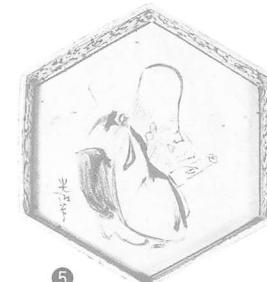


3



4

- ① 文昌物語絵巻 (部分)
- ② ⑥ 山水蒔絵 料紙・硯箱
- ③ 詩書巻 本阿弥光悦筆 (部分)
- ④ 鶴頭小禽図 前島宗祐筆
- ⑤ 寿老図六角皿 <重要文化財> 尾形光琳画・尾形乾山作
- ⑦ 源氏物語漆標図



5



7



神谷町駅 4・b出口より徒歩8分
溜池山王駅 13出口より徒歩10分
虎ノ門駅 3出口より徒歩10分

入場料 () 内は20名様以上の団体料金

一般	¥700 (¥600)
シルバー(65歳以上)	¥500 (¥400)
大学生	¥500 (¥400)
小中高生	¥300 (¥200)

■土曜日 高校生以下の児童・生徒並びに同伴の両親・教師無料

[ホテルオーディアとのセット入場券]

■ご昼食とのセット ¥3,000

■ケーキ&お茶とのセット ¥1,500

※お使いいただけるお店については
お問い合わせ下さい
※発行日より6ヶ月間有効